

「自分らしく生きる」ことに関する教材 指導案

指導者

ゲストティーチャー 高畑 桜

當山 敦己

- 1 日時 年 月 日 ( ) 限目 ( : ~ : )
- 2 学年・組 第 学年 ( 名 )
- 3 題材名 「ここいろ生き方教室～思春期の過ごし方・乗り越え方～」
- 4 本時のねらい

性の揺らぎやセクシュアリティに関わる悩みを含めた思春期に感じる悩みや葛藤についてやゲストティーチャーがどのように向き合い乗り越えたかを知り、友人と自分の感じたことや体験を分かち合う活動を通じて、「悩んでいるのは自分だけでない」「共感してくれる/力になってくれる仲間や味方がいる」と実感でき、自分自身を見つめ直す機会をつくる。

- 5 準備物
  - ・説明用のスライド
  - ・電子黒板 or プロジェクターとスクリーン
  - ・付箋紙
  - ・授業の振り返り・感想を書くためのワークシート

6 本時の展開

|                   | 主な学習活動   | 主な発問と予想される生徒の反応  | 指導上の留意点  |
|-------------------|--|--|--|
|                   | ここいろ生き方教室<br>テーマ：思春期の過ごし方・乗り越え方                |  |  |
| 導<br>入<br>10<br>分 | 1. 「思春期」に焦点をあてながら、思春期の身体と心の変化や人間関係の変化などについて知る。 | (伝えること)<br>○思春期＝心身ともに変化・成長してきながら、「自分自身」をつくっていく時期。<br><br>○第二次性徴が始まると身体の変化とともに心も成長し、感情の起伏が大きくなったり、他の人と自分を比較して悩んだりすることがある。人間関係も複雑になり、今までうまくいっていたことがうまくいけなくなったり(挫折経験)、様々な感情を味わっていく時期。 | ・導入時は思春期という時期のことを説明しながら、安心安全な場づくりを心がける。<br><br>・第二次性徴の時期や変化には個人差があることとともに、その変化に対しての感じ方も人それぞれ違うことやLGBTQ+の子たちの存在にも触れながら説明する。 |

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
|   |   | <p>○今まで自分のことを守ってくれていた大人（親・先生など）のことがたいしたことないように見えたり、腹立たしく感じることもあるが、それは成長している証。自分の生き方や自分が大切にしたい価値観をつくっていくために必要なこと。</p> <p>○自分で選択してその結果を引き受けていくことや、友達や先生に助けを求めることを経験しながら、少しずつ大人になっていく準備をしている。</p>  | <p>・自分が感じている感情にいい悪いはなく、成長しているからこそこれまで感じたことないことを感じたり、悩んだり、葛藤したりすることを伝える。</p> <p>・自立するために必要な「自分で選択する」/「助けを求める」ことを伝える。</p>   |
| <p style="text-align: center;">展開<br/>20分</p> | <p>2. こころ<br/>hiroshima の 2 人から自分自身の思春期の時の悩みや葛藤を伝え、どう乗り越えたのか、実体験を聞く。(20分)</p> | <p>(あっきー)</p> <p>○二次性徴で身体が変わっていくときに、自分の身体の変化が受け入れられなかった。女性化していくことに恐怖・嫌悪を感じて悩んだが誰にも言えなかった。</p> <p>○大好きなバレーボールに打ち込むことで悩みから離れる時間をつくって乗り越えた。</p> <p>(さーちゃん)</p> <p>○周囲の友達との恋愛話から女の子のことが好きな自分と周囲の子たちとの違いを感じて悩む。男の子を好きになろうとするもなれず自己嫌悪や自責する気持ちを感じていた。</p> <p>○グループづきあいにうまく馴染めず、いじめを受ける。友達の前で素の自分でいられなかった。</p> <p>○友人と接する時間を減らして、本や自然など人以外のものと友情を結ぶことで、安心できる時間を作った。</p> | <p>・付箋紙を渡し、印象に残った言葉や自分が思ったことをメモしてよいことを伝えておく。</p> <p>・2 人の話は、あくまでも乗り越え方の一例であることを伝えるとともに、新たな視点や選択肢の一つになればと思って、提示していることを伝える。</p> <p>・思春期の頃（主に中高生）の頃の実体験を自己開示しながら、生徒たちが親しみや安心を感じられる関係性をつくっていくことを心がける。</p> |

○「面白い元気な子」というキャラで恋愛話を乗り切ったり、「この子には話してもいいかもしれない」という子に悩みを打ち明けたり、友人によって距離感を変えながら付き合っていた。

3. 付箋紙に2人の話を聞いて思ったこと、印象に残ったこと、自分自身の体験など書く(5分)

**指** 2人の話を聞いて思ったこと、印象に残ったことはありますか？また、これまでにあなたが体験してきたことで困ったこと・理不尽に思うことはありますか？思いつくまま、付箋紙に書き出して見ましょう。

・付箋紙に書き出すテーマを提示し、全体を見る人、困っている子に個別対応する人で役割分担しながら、生徒たちの様子を見守る。

4. 付箋紙に書いたものを全体で共有する(5分)

**指** 付箋紙に書いたことをみんなに伝えてみましょう。書いてないこと、いま思いついたこと、友達の発言を聞いて伝えたくなったことも伝えてみましょう。

・5分間は子どもたちがどういう反応をしても、分かち合う時間(関わる時間)として設定する。

- ・2人の話を聞いて印象に残った言葉
- ・2人の話を聞いて思ったこと
- ・これまでに体験してきたことで困ったこと・理不尽に思ったこと

・反応がない場合は、発言しようか迷っている子が勇気づけられる言葉がけをする。(みんな迷っている、誰かが声を出すと他の人も声を出せるようになる、付箋紙に書いたことをそのまま言えば大丈夫だよ、など)

◎分かち合いの時間を経て、2人からのメッセージ

|                   |                      |  |  |
|-------------------|----------------------|--|--|
|                   |                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・話せても話せなくても、書けても書けなくてもいろんなことを感じる。</li> <li>・いまあなたが感じてる「気持ち」を大事にしてほしい。</li> <li>・あなた自身を知ることがあなたらしい人生をつくる第一歩</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「悩んでいるのは自分だけでない」「共感してくれる/力になってくれる仲間や味方がいる」と実感できるように、子どもたちと関わりながら発言を促していく。</li> </ul> |
| 結<br>末<br>10<br>分 | 5. 授業を振り返る<br>(感想書き) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業を受けて思ったこと、考えたこと、感じたこと。</li> <li>・自分自身について思ったこと、考えたこと、感じたこと。</li> </ul> <p>(自分自身の授業への関わり方や気持ちの変化について振り返る)</p>    |  |